

## 片山伝蔵

謹んで恩師片山伝蔵先生にお別れのご挨拶を申し上げます。

先に中井虎男先生をお送りいたしました私どもは、今また片山先生を失いました。人の寿命が有限であり、二先生とも長寿を全うされたとはいえ、いよいよお別れしなければならぬということは、何としても耐え難い悲しみであります。

先生は、深い慈愛と犯し難い威厳をもって、その生涯を一筋に子弟の教育に捧げられました。中井先生が三豊の父であられたとせば、先生は正に三豊の母であられました。先生は潔癖な方であり、規律を尊ぶ方であられました。物事を曖昧のままますことを好まれず、礼儀とけじめを重んじられました。先生の慈顔と温容、先生の端正なおもかげは、今なお私どもの胸の中に脈々と生き続け、後進の道標になっております。

教壇を退かれてからも、先生は池の尻に静かな余生を楽しまれ、時折、私に対しても綿々と、

弟子を思う切々たるお手紙を恵投していただきました。私の方からは、偶々思い出したように珍しいものをお送り申し上げると、こよなく喜んでいただき、丁寧に巻紙に書かれたご礼状をよこされ、かえって恐縮したことでした。

私は、旧制三豊中学の同学の人々とともに、先生の師恩に恵まれたことを感謝するばかりでなく、先生との師弟の交わりを得たことを人生の貴重な記録として持ち続けております。この感謝と喜びは、先生のご逝去によって消えるどころか、却って一層の精彩を加えたものになるようにさえ思えます。

春を迎えんとする三豊の天地は肅として声もなく、そのよき教育の母を送らんとしております。ここにご生前の深いご恩に感謝し、数々の多彩な思い出をかみめつつ、ご冥福をお祈りいたします。

(昭、四九・一・一三 甲辞)